



秘宝の黄金鶏の行方を探し
鶏鳴滝へ辿り着いた
黄金姫伝説を偲ぶ

ここがひめ
黄金姫街道 ウォーキングマップ

よたにまらう
『子守金神社』と横谷峡『四つの滝』を結び

ここがひめ
黄金姫伝説の滝

4 **けいめいたき 鶏鳴滝** 落差 33m
山つづみ **みころ** 4月初旬～

3 **もみしたき 紅葉滝** 落差 9m

2 **ふたみたき 二見滝** 落差 13m

1 **しらたき 白滝** 落差 17m

釣り堀

鶏鳴滝

紅葉滝

二見滝

白滝

愛蓮の滝

こもれび 遊歩道

子守金神社

こころ 公園

桜みころ

馬瀬川

黄金姫伝説に登場する
『天成草』は
薬草の総称とする

古代日本の民間薬草のトップスター

ゲンシヤウコ 開花: 9月中旬	トクダミ 開花: 6月初旬	センブリ 開花: 10月下旬 (二年草)
---------------------------	-------------------------	--------------------------------

※滝周辺で見ることが出来ます

黄金姫パーク

ここがひめ
黄金姫パーク



けいめいたき こがねひめ 鶏鳴滝と黄金姫伝説



寛治七年（一〇九三）頃、堀河天皇の皇妹、媼子内親王（永長元年八月順御）が院号の宣下をうけた都芳門院の仏間に、「秘宝の鶏」が安置されていた。天竺名工の彫刻で白金像の肉彫り、その胸部には天竺の経文が封じ込められていた。この秘宝は昔、五台山から百済に渡り、日本に渡ってきた。この鶏が元旦になると、必ず鳴いた。その秘宝の目付け役としていつも見守っていたのが、天生の美女黄金姫であった。都が戦に巻き込まれたある年の元旦、この鶏は空の彼方へ飛び去ってしまった。姫は比叡山へ向かい、観音様のお告げを聞いた。

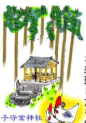
鶏の行方は「飛驒と美濃の境、滝のある山にいる」と。

これより東山道から飛驒路へ向かい、年の瀬にようやくこの地、坂梨まで辿り着いた。この時山の彼方で「秘宝の鶏」の声を聞き、鳴声を辿りこの滝まで来たが、声は鳴き止み姿も見えなかった。姫はこの滝の清流で我が身を清め、岩頭に立って合掌した。（この滝の下の淵を黄金淵と呼ぶ）すると白金の鶏が何処からか舞い上がり一声高く鳴き、やがて滝壺の中に消えてしまった。「秘宝の鶏」は、清流権現という滝の主になっていたのである。黄金姫は「秘宝の鶏」の行方を確かめ、この山中にある天成草を探って都に帰り、この薬草で長い病床の母を治したという。一説には、黄金姫は帰りの途中、坂梨川のはずれで倒れ、村人の手厚い看病もむなしく息を引き取ったという。この頃から、この滝では元旦の明け方になると鶏の鳴き声がかすかに聞こえるようになったことから、この滝を「横谷峽の鶏鳴滝」と呼んでいる。



また坂梨地区の「子守金神社」は村人および近郷の人々が咳に關した病氣や子供の百日咳にかかったときなど、ここにお詣りして願いをかけ、病氣が全快すれば、鶏の置物を供えることが慣例になっている。この「子守金神」の子守神は「金峯山秘密記」や「吉野曼荼羅」の中で、唐装で優美な女神の姿をした子守明神のことである。これは黄金姫の化身でもあろう。

この地域で満願時に鶏の置物を供えるという伝承は「黄金姫」と「秘宝の鶏」の伝説を偲び奉納するものであり、「黄金姫」への慈しみと感謝の意味を表現したものと考えることができる。



子守金神社

坂梨地区の《こもれび遊歩道》

はこの「鶏鳴滝」と「子守金神社」を結ぶ黄金姫ゆかりの山道でもある。



黄金淵